

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 3 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370852

研究課題名(和文)「変則」へのまなざし マイノリティへの調査をめぐる米国センサスの総合的な歴史像

研究課題名(英文) "Residual People": A Comprehensive History of the U.S. Census Enumeration of Minorities

研究代表者

菅 美弥 (Suga, Miya)

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：50376844

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は1790年以降の「その他全ての自由人」に始まり中国人、日本人、「混血」などの「肌の色」や「人種」の分類に明瞭に入らない「変則」とされる人々への調査実態について総合的な歴史像を描いた。1790年、全米各地の「その他全ての自由人」への調査は、ときに厳しい監視のまなざしとしてセンサス上に表れた。また、19世紀中葉以降の中国人への調査実態から、ホワイテネスの境界線は中国人を含みうる曖昧なものであったことが明らかになった。さらにはアジアからの移民を他者化(人種化)していくローカルレベルでのセンサス調査の実態が、19世紀末以降確立していく連邦の「包括的人種政策」の基礎にあったことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This project tries to delineate the comprehensive history of the U.S. Census, with special emphasis on the local enumeration of "residual" people, who did not clearly fit into the "color" or "race" classification, from "all other free persons," Chinese, Japanese, and "mixed-race" populations. In 1790, local enumeration of "all other free persons" was sometimes a means of surveillance. In the mid-19th Century, the boundary of "whiteness" became ambiguous, which meant that some enumerators reported Chinese as being "White." Based on these enumerations at a local level, the U.S. Census in the late 19th Century started to function as part of a "comprehensive race policy" toward immigrants from Asia.

研究分野：アメリカ史

キーワード：米国センサス 人種 マイノリティ 連邦とローカル 調査の実態 「その他」 総合的な歴史像 移民政策

1. 研究開始当初の背景

米国の移民・移住に関する研究では、歴史学、社会学等の分野を問わず、センサスの質的・量的データ双方を活用する必要性が広く認知されている。これらの先行研究は、文字史料やインタビューなどの質的なデータに偏りがちな、移民・移住研究の現状に対する方法論的な課題を提示している。一方、我が国では、1790年以降、膨大な資源を投じて行われてきた国家プロジェクトである、米国人口センサスの数多くのデータの有用性について真剣に討議されることのないまま、等閑視されてきたように思われる。

公式のセンサス・レポートや議事録は首都ワシントンで編纂されたもので、先行研究がもっぱら依拠するのもこれらの史料である。対する調査票は現場の調査員のマイノリティへのまなざしを炙り出す。また、あらゆるレポート作成や分類項目の変更の際に、センサス当局側が依拠するのは調査票であった。よって、マイノリティへの調査の実態と「人種」分類をめぐるセンサスのポリティクスの検証に際しては、公刊された史料だけではなく、各時代のローカルな文脈におりたち、調査票を丹念に検証する必要がある。調査票の徹底的な検証を通じてはじめて、マイノリティへの調査実態を個々の調査員の職能の差に還元せず、南部と北部の異同や全米的な傾向として提示することが可能となるからである。

このように調査票を史料としたうえで、人種・エスニック集団ごとに対象を限定するすみわけを超えて、また、各時代におけるマイノリティ（「自由黒人」「インディアン」、「カナカ」、「ムラトール」、「スパニヤード」等）への包括的な視座によって、全米各地で「変則」的存在とされたマイノリティに対するセンサス調査についての総合的な歴史像を叙述するプロジェクトの着想にいたった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、建国後まもなく1790年から始まった米国人口センサスにおける「人種」分類の変容とその要因、及びマイノリティに関する調査の実態を解明し、マイノリティへのセンサス調査の総合的な歴史像を提示することである。また、「包括的人種政策 (Comprehensive Race Policy)」の中心として位置づけられるセンサスの「人種」分類が、奴隷制度や移民政策と如何なる関連性をもって変容していったのかを明らかにする。

建国期、19世紀中葉から20世紀初め、20世紀初頭から現代までの3つの時代区分を立て、「自由黒人」、「インディアン」、「チャイニーズ」、「ジャパニーズ」、「アジア系」、「ヒスパニック」を主たる対象として、膨大な米国センサス調査票の解読作業を通じて、マイノリティへの調査の実態と「人種」分類をめぐるセンサスのポリティクスを通史的、包括的に解明していくことが研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、以下の課題を立てて3年間にわたって、そのつどの進捗状況に応じて研究を進めた。重要な関連テーマが浮上した場合には、柔軟に対応して全体像を描いてきた。

研究課題1: 建国期の「その他全ての自由人」をめぐるマイノリティへの調査の実態と管理

研究課題2: 19世紀中葉から世紀転換期の「カラー」・「人種」分類の変容と移民政策とのリンク

研究課題3: 歴史と現在の往来 「その他全ての自由人」から「その他の人種」へ

まず、建国初期の「変則」的存在である、「その他全ての自由人」についての調査票の収集を行い、人口比率では最大のメリーランド州及び北部のマサチューセッツ州を中心に調査実態を解明する。次に、1850年から1880年までの「チャイニーズ」、「ジャパニーズ」についての全調査票の収集・整理を行い、「人種」分類と移民政策のリンクについて明らかにする。さらには、マイノリティへのセンサス調査の総合的な歴史像を提示するため、20世紀以降の「アジア系」と「その他の人種」を主たる対象に、「その他」とされる人種・エスニック集団の歴史と現在を総括し、今後の分類項目の展開についても明らかにすることを本研究の目的とした。

これらのローカルな調査実態の総合的な検証には、史料である膨大な数の手書きの調査票を、時代・地域を横断して徹底的に検証する作業とそのデータベース化が必須の作業であり、本研究の実証の基礎をなした。膨大な史料からの堅実な実証作業のために、3年間を通じて研究補助を依頼し史料収集を効率的に行う工夫を行った。

4. 研究成果

本研究では、3年間の研究期間を通じて、国際ワークショップの開催や日本アメリカ学会年次大会での共同発表を通じて国際共同研究に力を入れ成果を上げることができた。2016年6月にはアメリカ・センサス史の大家、ミルウオーキー大学ウィスコンシン校のマーゴ・アンダーソン特別荣誉教授と、米商務省センサス局のデーヴィッド・ペンバートン博士を招聘し、学会でのパネル発表等を通じて、センサスにおけるマイノリティへの調査について総合的な歴史像を描いてきた。

研究期間のうち、主に2年目、3年目に重点的に発表や論文として成果を出版した。このうち、建国期「その他全ての自由人」への調査では、ニューヨーク州やマサチューセツ

ツ州といった北部では「インディアン」を、南部では「自由黒人」を対象として、細かな調査が行われた。とりわけ、低南部(サウス・カロライナ州)では、「自由黒人」への厳しい監視のまなざしが、センサス調査に表れたのだった。

19世紀中葉以降の「カラー」・「人種」分類の変容と移民政策とのリンケージについては、中国人に対する初のセンサスでの調査実態を通じて検証を行った。記録が行われた1850年連邦センサスの調査票から分かることは、「チャイニーズ」の「肌の色」の記録は、ほぼ全てが「ホワイト」を示す空欄であった、という歴史的事実である。しかし、同時に「チャイナマン」が名前欄にかかれるなど、名前の省略も広範にみられ、既に「チャイニーズ」が「ヨーロッパ人とその未裔」である「ホワイト」とは異なる存在になっていた。彼らは「黒人以外」すべてを包含する曖昧さをあらわしていたホワイトネスの境界内に位置づけられたとはいえ、十分かつ正確な記録が行われなくても良いという差別的な眼差し・行為の対象「マイノリティ」化していたことを、ローカルからの発信であるセンサス調査票は物語っていることを明らかにした。

加えて、1870年以降、異人種間結婚をした日本人移民と家族の「人種」の記載についても研究を進めた。これは研究を進めるなかで、連邦が規定するホワイトネスの政治性とローカルのまなざしの違いが明らかになる重要な事例として浮上したテーマである。日本人の異人種間結婚のファミリーに関する研究発表と論文の中で明らかになったのは、先行研究の叙述とは異なり、日本人の世帯主の「人種」がヨーロッパやアメリカ出身の妻の「人種」に影響を与えていなかったこと、つまり、「人種」の記載は世帯主(日本人男性)に従わず妻の出身に応じて個人別に行われていたことである。加えて、「ジャパニーズ」が公式分類となった1890年以降も、日本人移民が「ホワイト」と記載され続けたことである。

さらに本研究では「アジア系」という現代のセンサスにおける「人種」分類を歴史化し、現在と過去を往来しつつ「アジア」の概念図が如何にセンサスをめぐるポリテクスのなかで創造されていったかについて明らかにした。そこでは、19世紀後半から20世紀にかけて中国や日本と、シリアやアルメニアといった、異なる「アジア」からの移民に対するセンサス調査実態の異同を解明した。

このように、対象の歴史を細かく限定せず、また単一人種・エスニック集団ごとの叙述ではなく、その多くが「自由黒人」であった1790年以降「その他全ての自由人」に対する調査の杜撰さを「変則」とされる人々への調査の雛形として位置づけ、センサスにおけるマイノリティへの調査についての総合的な歴史像を描いたのが、本研究の成果といえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

SUGA-SHICHINOHE Miya, International, Interracial, and Multicultural Families among Japanese Immigrants in New York, 研究紀要 第11号, JICA 横浜海外移住資料館、査読有、印刷中。

菅(七戸)美弥、「チャイニーズ」と「ホワイト」との間で 1852年カリフォルニア州センサスにおける中国人をめぐる調査の実態、オケージョナル・ペーパー No.74 pp.1-27、法政大学日本統計研究所、2017年。
https://www.hosei.ac.jp/toukei/shuppan/g_oc74.pdf

菅(七戸)美弥、1850年米国センサス調査票にみる「チャイニーズ」の「人種」の境界、東京学芸大学紀要人文社会科学系II 第68集、pp.59-78、東京学芸大学、2017年。
http://ci.nii.ac.jp/books/openurl/query?url_ver=z39.88-2004&crx_ver=z39.88-2004&rft_id=info%3Ancid%2FAA12118320

菅(七戸)美弥、「その他全ての自由人」「マイノリティ」への米国センサス調査の初期事例、オケージョナル・ペーパー No.68、pp.1-56、法政大学日本統計研究所、2016年。
https://www.hosei.ac.jp/toukei/shuppan/g_oc68.pdf

SUGA-SHICHINOHE Miya, Recounting International, Interracial, and Multicultural Families among Japanese Immigrants through Census Manuscript Population Schedules, *The Japanese Journal of American Studies*, 26, 2015, pp.75-97. 査読有。
<http://www.jaas.gr.jp/jjas/pdf/2016/Japanese%20Interracial%20Families%20in%20the%20United%20States%20201879%E2%80%93931900.pdf>

[学会発表](計6件)

SUGA-SHICHINOHE Miya, An analysis of the US election results, ICAS Event, Temple University Japan Campus, (Tokyo, Minato-ku), November 10, 2016.

菅(七戸)美弥、センサスからみるトランスナショナル・インターレースナルな家族のかたち：初期日本人移民を事例に、招待講演 日本女子大学術交流講演会
ルーシー・クラフト氏のドキュメンタリーからたどる3人の女性のライフ・ヒストリー グローバルな視座をもって、日本女子大学(東京都文京区)、2016年3月19日。

SUGA-SHICHINOHE Miya, Recounting International, Interracial, and Multicultural Families among Japanese Immigrants through Census Manuscript Population Schedules, Workshop: Census and America: The Past and Present of the Statistics on Race and Ethnicity, The Japanese of American Studies, The 49th Annual Meeting of the Japanese Association for American Studies, International Christian University (Tokyo, Mitaka-city), June 7, 2016.

菅(七戸)美弥、日系・アジア系をめぐる移民・移住史の課題と展望、移民研究会例会、津田塾大学(東京都小平市)、2014年12月9日。

菅(七戸)美弥、米国センサスにおけるマイノリティへの調査実態、日本移民学会第24回年次大会 マイノリティと名指されること/名乗ること：移民・移住(史)研究の事例から、和歌山大学(和歌山県和歌山市)、2014年6月29日。

菅(七戸)美弥、「オリエント」の包摂と排除：世紀転換期米国センサスのポリティクス、移民研究会例会、津田ホール、(東京都渋谷区)、2014年5月24日。

〔図書〕(計2件)

菅(七戸)美弥、「アジア」の包摂と排除：19-20世紀転換期米国センサスのポリティクス、飯野正子、桑井輝子他、エスニック・アメリカを問う「多からなる一つ」への多角的アプローチ、彩流社、2015年、293(13-40)。

SUGA-SHICHINOHE Miya, Census Demographic Shifts, *Asian American Society: An Encyclopedia*, Edited by Mary Danico, Anthony C. Ocampo, SAGE Reference, 2014, 480(177-181).

(1)研究代表者

菅 美弥 (SUGA, Miya)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：50376844

(2)研究協力者

マーゴ・アンダーソン(Margo Anderson)
ミルウオーキー大学ウィスコンシン校・歴史学部・特別荣誉教授

デーヴィッド・ペンバートン(David Pemberton)
米国商務省センサス局歴史部門・スタッフ